

武蔵野市第五期長期計画・調整計画策定委員会
関係団体意見交換会（緑・環境／都市基盤）

1. 開会（午後3時30分）

2. 策定委員紹介

（事務局による流れの説明の後、夏目委員長より各委員の紹介があった）

3. 意見交換

【武蔵野の森を育てる会】 討議資料 17 ページ、基本施策3の（1）に「武蔵野市らしい市街地の緑のあり方を研究していく」と書かれています。どこにでもあるような緑ではない、武蔵野らしい緑のコンセプトとして、武蔵野台地の里山を受け継いだ緑が非常に重要だと考えます。里山を受け継いだ緑とは、独歩の森のような雑木林、近隣にある畑や屋敷林、また玉川上水や千川上水の中に、生活の都市化及び外来種や園芸種の侵略に脅かされながら細々と生き長らえている植物、そこに集まる昆虫、野鳥、小動物が織りなす生態系だと思います。邑上市長も市報正月号の対談の中で里山が重要とおっしゃっています。また、2月11日に開催した里山をテーマとする講演会には、定員を大幅に上回る市民においでいただきました。市民は里山というイメージにとっても共感を持っていると感じます。

個別計画の緑の基本計画でも、緑の質の向上として、生態系の保全、武蔵野の風景の保全が強調されています。それを後押しするように、長計の重点施策では、境山野緑地の保全ということで、林の自然をもっと再生させるためには人手による更新も必要だとされています。コストに関しては、緑のボランティア団体が二十何団体あって、ボランティアでやれる、またはボランティアだからこそやれる部分が相当多いと思います。ボランティアでやることを造園会社に委託すると、恐らくすごくお金がかかると思います。「里山」「雑木林」「生態系」「生物多様性」を武蔵野の緑をあらわすキーワードとして、市民ベースの活動をもっともっと盛り上げていくような夢のある、里山をイメージするような計画にしてほしいと思います。

【A委員】 緑の保全には非常にコストがかかっていることも事実ですので、この点も踏まえて、単に緑地比率の目標値を定めるのではなく、もっと質を考えて、玉川上水、井の頭公園、里山、独歩の森を持つ武蔵野らしい緑ということで、市全体のまちづくりと組み合わせた形のを市民の考えをきちんと生かしながらやっていく。ぜひ皆さんのご意見をいただきながら、そういう方向で考えていきたいと思っています。

【東町道路問題協議会】 今、東十一小路と宮本小路は日に 5,000 台の車が抜け道を通っています。これは私が道路協議会で警察を含め市の交通対策課の方々と 18 年間一生懸命いろいろやっていますが、

まだ解決していません。外環をオリンピックまでにはつくるとかいう話が出ていて、それは無理としても、外環の地下の工事は進んできています。もし外環ができると、青梅街道のインターからまた1万2,000台ふえます。外環は国と東京都がやっていることでありながら武蔵野市民に影響が出ます。私どものところだけではなくて、女子大通り、五日市街道、水道道路、全てがその対応をもう考えておかななくてはならないと思います。こうしたことを将来の大きな課題と捉え、その書き入れをぜひお願いします。

【A委員】 外環に対応する整備ということで、市内全体のほかの側道もあわせて考えていく必要が出てくる場合もあります。そこは東京都、近隣自治体としっかり話し合いをしていくことが何よりも大切だと考えます。貴重なご意見を賜りましたので、市の進行もしっかり伺って検討したいと思います。

【B委員】 外環の本線のほうはもう着工しています。本線の影響はご意見のとおり出てくると思います。本線の流入に対してどうするか、一定の言葉を書き込む必要があるのかなと感じています。それについては検討させていただきます。地上部のほうは私どもはまだオーケーも出していない道路ですので、それを前提に書き込むことはできないと思っています。

【環境パートナーシップ会議】 第1に、産業構造の転換という問題への言及が余りにも少ないと思います。産業構造はそう簡単に変えられません。その転換は長期的な問題です。これから市民の構成が変わってくる、また日本経済の国際社会における競争力も変わってくる中で、長期的な視点に立ち、国全体あるいは東京都との整合性を持ちながら、また我々としてできることはイニシアチブを持ちながら、産業構造の転換について、もっとクリアなメッセージを出してほしいと思います。

第2に、商店街に対する支援は武蔵野市は結構よくやっていますが、今、商店街が市民の住居地にだんだん広がってきています。住居地域と商店街のゾーニングをちゃんとやってほしいと思います。

第3に、武蔵野市には多様な市民のニーズに応えた市民公園が大小さまざまできています。市民公園はできるだけそこに住んでいる市民が自分たちで管理する。市民の積極的な参入を促す仕組みづくりが重要であり、そこは市でもっと積極的にやってほしいと思います。

第4に、最近マレーシアのイスカンダールで開催されたFCI (Future City Initiative) の会合に武蔵野市からの参加がありませんでした。せっかく武蔵野市はいろいろないいことをやっているのに、アジアの諸都市と互いに情報交換し、彼らから学ぶと同時に、彼らに協力できるところは協力していくというアジア地域全体の都市間協力の場にどんどん出て行って、これからの日本の新しい意味での国際協力的一端をぜひ武蔵野市も担ってほしいと思います。

【B委員】 産業構造の転換は、行政がそれを直接担うというよりは、行政がそれをどうサポートしていくかという問題だと思います。法人数からいえば、武蔵野市の産業のほとんどは飲食業を中心としたサービス業と卸・小売業が占めています。市としては、通信網などの基盤整備を初め、ITに適した環境づくりを推進し、今後、サービス業や金融などIT技術を活用した産業を誘致、振興していきたいと考えています。

市民公園を住民で管理する仕組みづくりというのは大変ありがたいご提案です。公園があると、安らぎもあると同時に、枯葉の問題とか一定の負担もあります。今は24団体に公園の管理等をお願いしていますが、それがさらに広がって、地域の方々が対応していただけるような方法をぜひ検討させていただきます。

【C委員】 商店街が居住地のほうに少しずつ広がってきて、そのために居住地が夜も騒がしいというのは絶対まずいと思いますが、一方で、おもしろい小さなお店があることで、歩いて非常に楽しいまち、人が集って楽しめるまちになるという面もあります。まちづくりは簡単に言えない面もありますので、ご指摘の点も含めて今後の課題とさせていただきます。

国際的な発信をもっと積極的にというご指摘については、武蔵野市の場合、とにかく名所旧跡に観光客を誘致するという形でのまちのにぎわいは若干難しい面があります。吉祥寺のお店はアジアを中心に外国のお客様がふえています、そのPRのため積極的に海外に出ていくというところまでは、ちょっとまだ踏み出せないでいるのが現状かと考えています。

【道プロジェクト】 私たちは主として自転車交通についてスタディーを進めてきました。武蔵野市に限らず日本では、自転車に関する規制という、その大部分が駐輪場や放置に関するものです。アメリカ、カナダ、オランダでは、前にスクールバスがいるときは一旦とまるとか、サインを出して曲がれとか、道路上の自転車通行のルールが強制力を持って定められていますが、日本ではそういう規制はほとんど見当たりません。通行ルールに関しては、小学生、中学生に講習会を開く程度です。法律の問題はそう簡単にいきませんが、この辺はちょっと考えていただきたいと思います。

【A委員】 自転車通行のルールの遵守については、強制力を持った法律を定めることは市単独ではできません。今のところ市としてできるのは、教育の徹底、警察との協力関係、あるいはよりトラブルが起これにくい道路の利用方法を考えるといったソフト的な対策しかありませんが、そうした細かい政策をいろいろ組み合わせて、武蔵野市としての体系を示せるよう考えさせていただきます。

【市民まちづくり会議・むさしの】 ハード面での自転車対策はもう難しいのかなと思っていたのですが、海外では、自転車と歩行者を優先する道路をつくってしまう。前を自転車に乗った子どもたちがワイワイ言いながらゆっくり走っていたら、車はそれを追い越せないという道路にしてしまうという考え方が出されていて、その実例も見せていただきました。私どもも近々、都市計画道路の3・4・27号線とか、車の交通が少ない道は自転車・歩行者優先道路にしてしまうという具体的な提案を出したいと思っています。今後、交通量が減っていけば、その発展形も考えられます。ハード面でも諦めずにそういう方向性をぜひ調整計画の中にうたってほしいと思います。

【B委員】 自転車の交通事故は、件数としては減ってきていますが、交通事故全体に占める比率は変わらないか、若干ふえています。その事故の原因は、通行ルールを守らなかった、つまり法律違反が大半です。市として、自転車通行ルールはマナーではない、遵守しなければならない交通法令であるということをもう少し強く訴えていかなければいけないと考えています。

歩行者・自転車を優先する道路というのはほんとにいいご提案です。調整計画にどう書き込むかは別として、今後、必要になる考え方だと思います。

【市民まちづくり会議・むさしの】 基本計画は、現状認識をまず書いて、課題は何かを書いて、その課題を解決する方向を明確に示すのがその性格であり、任務だと思っています。武蔵野市の交通の課題解決の方向性は、歩行者優先、自転車優先の道路です。討議要綱 19 ページを見ると、都市計画道路につい

て書いた基本施策4の最後のほうに、歩行者・自転車共存でスムーズな交通網を確立していくという言葉がありますが、都市計画道路の整備という文脈ですから、今61%しか進んでいないその整備を待たないと、課題が解決しないことになります。これから道路をつくるときに歩行者優先、自転車優先の道路にするというだけでなく、既存の道路をどのようにしてそうした道路につくりかえていくか、それをこそ書くべきです。都市計画道路の整備を待たなければできないような書き方は今の時代に沿わないと思います。

方向性は、基本施策3で交通のことを書いているのですから、そこで明確にさせていただきたかったと思います。基本施策3と4は、武蔵野市で交通対策課と道路課にセクションが分かれていることに対応していると思いますが、市民にとってセクションの違いなど重要ではない。両者が協力して市民にとって快適な交通にしていくという観点が重要です。その際、討議要綱に出てこなかった言葉ですが、モーダルシフトが極めて大切です。武蔵野市は公共交通が大変便利だと強調されています。自動車の交通量は減少していきますから、自動車から公共交通、さらには自転車へのモーダルシフト、脱自動車依存を方向性として明確に出していただきたいと考えています。

【A委員】 今回、特に都市基盤のところは、とりあえず現行の計画とほとんど変更のない形で提案させていただきます。モーダルシフトはおっしゃるとおりです。市民構成とともに市民の交通の使い方も変わっていきますので、ぜひまたお知恵を拝借して、より課題に対応した形で書けたらと思います。

【道PT】 武蔵野にある既存の道路をもう一度きちんと見直してほしいと思います。自転車の走行環境について、道が狭くてもうどうしようもないと考えがちですが、既存道路の使い方、デザインの仕方です。自転車走行環境がよくなるという研究者のお話も聞きました。また、「かたらいの道」は人に優しい道として市の資料の中に出てきます。あそこは確かに歩道は広くていいのですけれども、車道にある自転車走行レーンは物すごく狭くて非常に危険です。もっといい使い方ができるのではないかと。あと、緑被率も大切ですが、街路樹のために歩道が狭くなり、安全性を損なっているという問題もあります。その辺もよく見直していただきたいと思います。

【西久保1丁目緑をまもるまちづくり協議会】 今、自転車は車道におりなければ交通違反だとされていますが、そう言うのだったら、自動車に対する規制も厳しくすべきです。ヨーロッパでは、自転車をおろすときは、必ずや自動車も一方通行しかさせない、自転車道の幅員は少なくとも2メートルとる、この2つを基本原則としていると伺いました。そのあたりも勘案してもっと具体的に書いていただけたらと思います。

【A委員】 いろいろな意見の方がいらっしゃいますし、武蔵野市よりも大きい団体の法律の規制があります。ましてや調整計画ですので、大きな方向性や考え方は提示できるのですが、個別のことを余り書いてしまうと、逆にそれにとらわれて、いろいろほかの政策とのバランスを欠いてしまうということもあります。その辺をご理解いただきながら、しかし私もおっしゃることに同感ですので、委員の中でさらに話し合いをさせていただきます。

【むさしの地域猫の会】 長期計画の中に、犬や猫を初め、ペットに対するものが見受けられないように思います。私たちがやっている地域猫活動は、野良猫たちに手術をして、もとの場所に戻し、一代限

りの命を全うしてもらおう活動です。それによって野良猫はどんどん減っていきます。猫のトラブルはご高齢の方のご家庭がかかわることが多いのですが、私たちにできるインターネットによる発信ですと、ご高齢の方が情報を得られません。その辺、市として啓発啓蒙活動に積極的に参加していただきたいと常々思っています。そうしたことも含めて、今後、計画の中にペットに関することを入れていただけるのか、お伺いします。

【委員長】 ペットのお話は、策定委員会では今まで議論した記憶がありません。その意味では、武蔵野市の中で議論が若干不足しているような気がいたします。マナー教育ということとはまた別の視点がありますので、今後の策定委員会の議論に取り上げさせていただければと思います。

【市民まちづくり会議・むさしの】 武蔵野市はある程度成熟したまち並み、市街地が形成されています。このバリューをより高めていくことが武蔵野市のまちづくりの大きな課題であり、課題解決のために、討議要綱 18 ページにある「良好な景観の確保」は大変結構なことですし、ぜひそうしてほしいのですが、ここに書いてあることは、残念ながら屋外広告物のあり方の検討とか空家対策だけです。なぜ景観条例、景観計画がうたわれないのか。景観は長い時間をかけて初めて成立するものですから、長期計画の中に条例や計画がうたわれない限り実現できないと思います。

【西久保1丁目緑をまもるまちづくり協議会】 三鷹の駅前のラーメン屋さんのあの看板は、「あれは何ですか」というようなひどい感じになっています。景観条例、さらには色彩条例まで踏み込んでいかないと、日本のまちはめっちゃめっちゃになっていくのではないかと。景観条例についてももう少し強い記述を入れていただき、武蔵野らしいまちをつくっていけるような基本計画にしてほしいと思います。

【B委員】 今、担当部署で、景観についてどういうことができるか議論しています。今後、まち歩きを含めて、武蔵野市の景観について市民参加でよい点、悪い点をまず抽出してみよう。それから、具体的に景観条例あるいは基準をつくったとして、大規模開発の場合は事前調整で適用が可能ですが、戸建てはどうするのか。そもそも戸建てへの適用は難しいと思いますが、適用したとして、どの段階で指導なりができるのか。そういったことの検討を今進めていることはお伝えできます。その意味では、その部分の書き方が討議要綱では少ないので、調整計画自体にはもう少し書き込みたいと思います。

【環境パートナーシップ会議】 持続可能なまちづくりのためには、子どもだけではなくて、大人への教育が重要です。学校教育はもちろん、社会教育、企業内教育が非常に大切です。大人への教育が十分なされていないから、交通の問題とかいろいろなことが起こるわけです。前市長にも現市長にもお願いしたもの、なかなか実現されないのですが、大人への教育という視点をぜひ基本計画の中にしっかり入れてください。

【武蔵野の森を育てる会】 ご発言を聞いていて、ともすると都市基盤の充実と緑が相反するような聞こえ方もしたんですが、16 ページの基本施策3に「『緑』を基軸としたまちづくりの推進」と書いてあります。人間は動物の中で生きているものですので、緑の中で都市もつくっていく。それが持続可能なまちづくりではないかと思いますので、緑の大切さをもう一度強調しておきたいと思います。

【委員長】 昭和 48 年に武蔵野市緑の憲章が出されました。緑は武蔵野市のまちづくりの 1 つの柱です。交通の邪魔だ、歩道の邪魔だという意見もある一方、夏の暑い日、ぐあいの悪いときに緑が 1 本あるだけでもホッとします。その意味で、いろいろな視点から検討すべき課題と認識しています。

【マイボトル・マイカップキャンペーン】 私たちは 2011 年 3 月の福島原発事故を契機に、自分たちのライフスタイルを見直そうということで、ペットボトルの使い捨てを 1 つの象徴として会を立ち上げ、マイボトル・マイカップを呼びかけています。市のごみ総合対策課も、ごみの排出量の抑制に一生懸命取り組んでくださっていますが、ごみ問題は市庁舎全体にかかわるものです。きょうも皆さんの前にペットボトルが並んでいますが、ほかの会議でもやっぱり並びます。やめてほしいと申し入れてもなかなかやめていただけません。このような会に出られる皆様方にまず認識していただくことがとても大事です。そして、今回の調整計画は、持続可能な社会あるいは循環型社会をメインとして書いていただきたいと思います。

【ファングリーン】 私たちの NPO は、小学校の校庭の全面芝生化が本来の目的です。武蔵野では、いろいろマイナス面があるということもあり、全面芝生化が進みません。マイナス面は確かにあるかもしれませんが、今まで校庭で遊ばなかったような子も校庭に出るようになり、子どもの運動能力や体力が向上し、生徒が学校を休む日にちが減少するというプラス面もあります。

緑被率ということであれば、裸の小学校の校庭はすごく目立ちます。小学校はもちろん幼稚園や保育園の庭も芝生化すれば、緑のにおいを感じるとか、子どもたちの自然との接触がそこから始まると思います。芝生化はいろいろな分野にまたがる問題ですので、武蔵野市の 1 つの方針として調整計画にぜひ出していただければと思います。

【市民まちづくり会議・むさしの】 討議要綱 20 ページの基本施策 7 に「三駅周辺まちづくりの推進」とありますが、武蔵境の記述が他の 2 地区に比べて少ない。武蔵境はその緑の豊かさが大きな特徴です。駅前にも二十数本の巨木があります。この武蔵境の特徴を端的に明記するとともに、豊かな自然環境や自然景観を維持し、それをまちづくりの中心にしていくということで、記述内容を豊富にしていきたいと思います。

【A 委員】 議員の方ともお話しして、持続可能な武蔵野市らしいまちづくりのあり方を考えて、その中で緑と共存させるようなまちづくり計画や都市計画を考えるべきであるというご意見をいただきました。また、セクションごとに書かれているというご指摘があり、ちょっと縦割りに感じられるというのはよくわかりましたので、直ささせていただきたいと思います。武蔵境地区については、おっしゃるとおり、特徴をしっかりと押さえて、その中で現行の計画、あるいはこれからやらないといけないことを書くべきだと思います。

【環境市民会議】 実は専門家の先生から、玉川上水の中流には富栄養化したような下水処理水を流していて、それが地下水に入り込んで武蔵野の深井戸に影響が出てくる、おいしいと言われる武蔵野市の水を将来は飲めなくなるかもしれない、ちゃんと調査しろと言われました。お調べいただければ、お調べいただければと思います。

【B委員】 今、玉川上水を流れている水は、自然の水ではなく、下水処理場の水を回してもらっています。ただ、それは何回かに分けて浄化を行って最終的に出てくる水です。一方、武蔵野市の深井戸の水は飲料水としての基準を完全にクリアしています。科学的データはないですが、市外の方においしいと言っています。今後も大丈夫かと言われると、私には今その知見はありませんが、先生のご意見にも十分注意しながらやっていきたいと思えます。

【緑町三丁目町会】 当町会は、クリーンセンター建設に反対を表明し、周辺まちづくりの検討に加わりませんでした。それは当町会にとって非常に不幸なことでした。その不幸な歴史を継続することなく、平成 21 年に市が再びこの地で建てかえをすることを表明した際には、我々は、子どもたちを初め周辺住民が住んでよかったと思えるようなまち、また市民全体がこの地域に誇りを持ってもらえるようにと思ひ、現在の施設周辺整備協議会に参画し、具体的な提案をさせていただきました。新クリーンセンターの施設周辺整備、周辺まちづくりを調整計画に何らかの格好で添えていただきたいと思います。

【B委員】 今後のクリーンセンター周辺のまちづくりは、協議会の中でしっかり議論を進めてやっていくという姿勢に変わりはありません。この調整計画にどこまで書き込めるか、内部で検討させていただきたいと思えます。また、クリーンセンターについての過去の経過はおっしゃるとおりです。武蔵野市のごみの処理をここでやっていること自体、余り知られていない状況でもあります。この地域にごみの処理場があること、そしてこのごみの処理場から出た灰が日の出町に持っていかれて、山の中に埋められているということも、皆さんにしっかりとお伝えをしていかなきゃいけないと思っております。

【吉祥寺南町コミュニティセンター】 マンションの問題は、70%を超える人口が集合住宅に住んでいる中で、武蔵野市のまちづくりの1つの大きなテーマだと思えます。私たちの地区では地域マンション交流会のようなことを何年間かやってきましたが、自然に放っておけばどうにかなる、あるいは自分たちだけで解決していくというところをもう超えていて、市として何か仕掛けが必要ではないかと思えます。

また、外環の問題は、吉祥寺南町にとっては大きな問題です。外環をどのような文言で書くかはとても難しいと思えますが、私たちの大変な思いをご理解いただき、文章にしてほしいと思えます。

【A委員】 武蔵境地区のように、マンションができますと住民が一気にふえて、インフラを初めとして、さまざまな市民生活の中に影響が大きく出るといのは皆さんよくご承知のとおりで、研究も進んでいます。調整計画には今のところマンションという書きぶりはありませんが、住宅マスタープランとかそういったものは全て書かれていますので、それらとの連動性ということで、持続可能なまちづくりの中の今後の大きな課題であるということに記述したいと思えます。

【D委員】 「分野別の課題と方向性」の3「文化・市民生活」のところでも引用されている「これからの地域コミュニティ検討委員会等」では、武蔵野市の場合、自治会がなく、マンションの管理組合がどのコミュニティに属しているのか、どういったコミセンに入っているかといったことへの理解が一切なかったという現状を議論しました。そこで、どこのマンションの方はどこのコミセンの範囲なんですよということを理解していただくような仕組みを、マンションをつくる段階から取り入れていこうという議論を今進めています。ただ、分譲マンションを誰かにまた貸している場合、その住民の方をどの

ようにコミュニティに入れていくのかは、武蔵野市に限らず、ありとあらゆる地域で非常に難しい問題になっています。ここは皆さんにもお知恵をいただきながら考えていく問題かなと考えています。

【三鷹駅北口地区まちづくり準備会】 三鷹駅北口街づくりビジョンは 28 年に作成予定ということですが、今どの段階にあるのか。数年前に北口が改修されたとき、市の説明会があるまで、市民はそのことについて何も知りませんでした。結局、市民の意見で市の案は修正されました。市民参加というのは、この長期計画にかかわらず、武蔵野市のモットーです。それがただの言葉だけにならないよう、三鷹駅北口街づくりビジョンはもちろん、いろいろなプロジェクトに市民が一から参加させていただけるようお願いします。

【B委員】 三鷹駅北口街づくりビジョンについては、現在、三鷹駅周辺の利用状況の把握は終わっていると思います。どのようなポテンシャルがあるかについても一旦調査をして、さらにその調査をやっているところだと思います。市民参加については、議論のもとになる資料整備の段階からの参加は難しいと思いますが、今後の具体的なビジョンづくりについては、まちづくり準備会の皆さんを初め、地域の皆様、事業者の方、商業者の方、さまざまなご意見を聞きながら行っていきたいと思っています。

【クリーンむさしのを推進する会】 酔っぱらっているときに東京のまちのほうからタクシーに乗ってまいりまして、杉並区のほうは街路樹があるわけですけども、武蔵野市に入ってくると、途端に木がなくなります。今さら両側の街路樹を云々とは言えないかもしれませんが、真ん中の中央分離帯に相当するようなところに街路樹があったらいいと思います。また、ただ緑があればいいというのではなく、きちんと管理して、きれいな緑のまちにしてもらいたいと思います。

【西久保1丁目緑をまもるまちづくり協議会】 西久保一丁目緑をまもるまちづくり協議会が 12 月の初めに発足しました。これは武蔵野市でまちづくり条例に基づいて発足した第1号になります。ともかく住宅街の緑がどんどん、どんどん減ってきています。私たちは緑を守るためまちづくり条例の第1号の団体としてしっかりと頑張っていきたいと思っていますので、何か長計のほうへ書き込めることがありましたら、よろしくお願いします。

【E委員】 自分の地域を知るだけでなく、武蔵野市のほかの地域にはどんな課題があるのかということをも市民全体で共有する、見識を広げていくことが必要だと思います。これはあくまでも個人的な意見なので、どこまでできるかわかりませんが、調整計画に、歴史的な背景も含めて、市内全体で実はこういう課題があるということを書いたり、小学生とか中学生が武蔵野市について勉強できるような小冊子をつくったりしたらいいのではないかと思います。

それから、市民会議から出ている僕としては、市民意見をどう拾い上げていくかということに焦点を当てています。武蔵野市の中にはいろいろな協議会がありますが、結構な数、行政だけでつくられたものがあるんです。副市長がおっしゃったように、資料づくりの段階では難しいかもしれませんが、話し合いが始まるその一歩目から市民がかかわっていくような形も、今後、第六期長期計画になるかもしれませんが、市民参加の形として考えていかなければいけないかなと感じました。

【武蔵野の森を育てる会】 職員が市民と対話ができ、一緒に考えていけるような環境をつくってほ

しい。職員の方個人はとてもいい方ですが、意見を言っても、その背後に行政機構の難しい問題がありそうで、なかなかちゃんとコミュニケーションができないと感じています。また、縦割りも排除していただきたい。我々武蔵野の森を育てる会であれば、緑のまち推進課や環境政策課にまたがるのですが、なかなかトータルに政策が推進されていないように感じます。この市民との対話と縦割りの排除という2点を、できれば討議要綱 23 ページの基本施策 6 の組織のところに入れていただきたい。特に市民との対話は、市民活動促進基本計画の中で明確に書かれています。こういう個別の計画との対応関係もきちんととりながら進めていただければと思います。

もう1点、成人教育は、内容的には討議要綱 15 ページ、3「文化・市民生活」の基本施策 4 が完全に相当します。これは所管も教育委員会ですし、本来であれば子ども・教育に入るべき項目だと思います。ただ、いろいろ事情があるのしょうから、一応意見としてだけ述べさせていただきます。

4. 閉会 (午後5時16分)